令和7年度　重層的支援体制整備事業関連の取組の経過

事前資料１－１

C 多機関協働推進委員会

6/25 委員会①

【報告内容】
・研修を通じて関係機関の理解が広がり、随時型会議での事例検討も増加。課題は事例のフォローアップ体制の構築。
・就労準備支援事業と社会参加推進事業を一体的に実施する「レシピ作り」について報告。

【委員からの意見】
・参加支援事業の評価が難しいためレシピとして見える化したことは意義深い。
・レシピによって取組が分かりやすく整理されており、支援者が対象者の言葉からヒントを得て実行する感性が素晴らしい。
・「相互エンパワーメント」「専門職だけでは支援が成立しない」という言葉が印象深い。

9/19 生活困窮者自立支援専門部会

【報告内容】
・子どもの学習・生活支援事業の新たな委託先「株式会社キズキ」の紹介。
・自立相談、家計改善、就労準備と社会参加の一体的実施、子どもの学習・生活支援における成果と課題。

【委員からの意見】
・国の制度改正が民間の裁量的取組を制限する方向にあることに懸念。
・経済的な相談に来た人や金銭的な支援をしてもらえないなら支援は不要という人に対して、滞納金が改善されたという支援モデルをベースに「支援の成果が見える」資料を作成し、説明してはどうか。
・好事例を知ってもらう機会を増やし、市民や関係機関に周知をしてはどうか。

12/18 委員会②

【報告内容】
・就労準備支援事業（困窮）と社会参加推進事業（重層）の活用タイプについて報告。精道高齢者生活支援センターにおける社会参加の取組共有。
・重層的支援体制整備事業に関する取組

【委員からの意見】
・就労準備支援事業と社会参加推進事業の使い分けや、制度の狭間をなくしていくという対応の流れがよくわかった。
・社会参加の支援について、地域が色々な方面からアプローチするのはすごくいいことだと思う。
・社会参加をしていた人が病気などにより機会を失ったときに、どう対応するかというのは見えやすい課題であり、その課題への対応は意味があると感じた。

B 多機関協働支援会議

4/13 研修①
6/20 定例型①
7/16 随時型①
8/14 随時型②
9/12 定例型②
10/17 随時型③
12/1 随時型④
12/12 定例型③
2/19 随時型⑤

☆随時型①（7/16開催）
就職希望だが、就職活動を進めていく上で課題を感じる高校3年生の生徒

☆随時型②（8/14開催）
自治会長を引き受けたが、荷が重いと感じている住民へのかかわり

☆随時型③（10/17開催）
住民が気にかけているシングルマザーと不登校のこどもの世帯への支援

☆随時型④（12/1開催）
父に攻撃的になり、相談員に「私は危険人物」と語る40代女性へのかかわり

☆随時型⑤（2/19開催）
重度障がいの息子と寝たきりの母を支える、父と小学生の娘の4人世帯への支援

A 重層的支援のチーム会議

1 4/2 研修のデザインと今年度の事業全体の運営方針を協議

2 5/9 今年度のテーマは「エリア性」。専門職がエリアを意識するために地域住民と出会うしかけが重要
- R6ふくまち2回目のグループワークで出た意見をどのようにまとめるか

3 6/3 1回/月では対応しきれないため、2回/月の開催を検討

4 7/28

5 8/4 相談のハードルを下げ、社会資源情報の気軽な入手のためのツールに対する期待

6 8/21
- 地域福祉計画も含めた委員会全体のロードマップが必要

7 9/2 多機関協働支援会議開催後の事例モニタリングやフォローアップ体制構築が課題
- ふくまちの委員間で「地域のつながり度」のとらえ方が違うのでは

8 9/18

9 9/29

10 10/16 参加支援通信、LINEのオープンチャットを活用したプラットフォームの検討

11 10/27 オープンチャットのルール確定、多機関協働支援会議（随時・定例）のデザイン
- 芦屋市における地域福祉の目標とふくまちで協議することの確認。「孤立」をなくしていこう！

12 11/20

13 1/15 多機関協働支援会議（随時型）のデザイン。重層の仕組みを活用してよかった、と思ってもらえるように。「困っていることをキャッチして、つないで、今がある」
- ふくまち振り返り：地域支え合い推進員の活動と地域福祉の計画や構想とのリンクが難しい。孤立をなくす、という目標に対して、現場の実践をどうエビデンスとして積み上げる？

14 2/4
- ふくまちのデザイン

15 3/2

16 3/19 重層まつりデザイン：エリアを意識した顔合わせの場＋重層の勉強（自分の守備範囲外の人もつないでね）

17 3/26
- ふくまちどうする会議をどうする？地域支え合い推進員と一緒にふくまちをデザインしていくために…

F' 地域づくり関連の会議

4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月

各種会議体等で、地域支え合い推進員、地域包括支援センター、ほっとかへんネットあしや等に対して、参加支援の充実に向けたネットワーク構想の展開戦略を説明

① 多機関協働支援会議をより地域を意識した会議へ
② 「地域住民と専門機関が出会い語らう場」の構築

地域支え合い推進員と社協地区担当職員が、会議のデザインやプログラム、参加者への声かけや案内、グループ編成、当日の運営全般を実施

8/6 縁ノ場 @山手
8/18 縁ノ場 @精道
8/27 縁ノ場 @潮見

縁ノ場ふりかえり

地域支え合い推進員と第1回福祉のまちづくり委員会の振り返りを行い、第2回のデザインを検討

地域支え合い推進員と第2回福祉のまちづくり委員会の振り返り（通称：ふくまちどうする会議）
・地域支え合い推進とふくまちとの関連性の確認
・みんなで定期的に振り返りや次回のデザインを考える
・地域支え合い推進員の活動とふくまちを重ねたロードマップがあるといい

D 福祉のまちづくり委員会（通称：ふくまち）

10/25 委員会①

【報告内容】
多機関協働推進委員会及び地域づくり活動報告

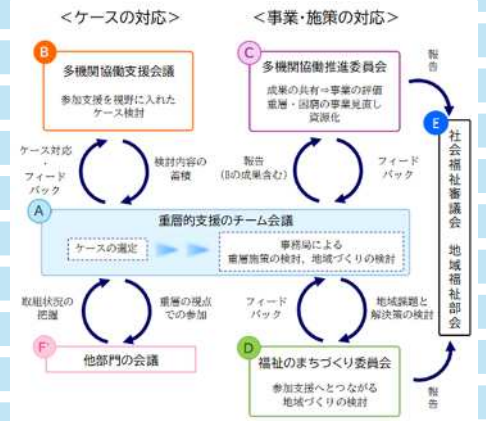
【協議内容】
「“2030年の芦屋”にもっとも大切なことは？」
・前回のグループワークでの意見を振り返り、5年後の2030年の芦屋に、一番大事なものはどれか、など意見交換。

【委員からの意見】
・つながりが希薄になっている今、イベントなどの楽しいことでつながり、「困ったといえる」「助け合える」関係といった日常的につながる基盤づくりができるといい。
・各GWのスローガン「地域のつながり ハレの日×ケの日」「多様性全世代楽しさつまみぐい型双方向コミュニケーション」「身近な地域でちょっと困ったが言える・助け合える楽しいイベント」

【報告内容】
①芦屋市における地域福祉の目標と福祉のまちづくり委員会で協議すること、②多機関協働推進委員会、③ふんわりビジョン

【協議内容】
1回目の続きで、「孤立している人とのつながり、孤立しない地域づくり」をテーマに、①リーダーが育つ組織って？②団体間はどうつながっていったらいい？の2要素を入れて、意見交換

【委員からの意見】
・リーダーの負担軽減のため、役割分担やサブリーダーの育成、新たな参加者が入りやすい雰囲気づくり、多世代が関わる体制が必要。
・団体間での地域活動を通じての思いや情報の共有、気軽に交流できる仕組みづくりが重要。
・従来のリーダー像を見直し、役割を分担しながら、好きなことが社会的意義につながる仕組みを検討する必要がある。
・孤立の種類に応じて、専門職が可能な支援、住民が可能な支援が違うので、専門職と住民がどう協働し、孤立を解消していくか。

2/12 委員会②

【参考】ケースから施策の検討を進める各種会議体の機能
（重層的支援体制整備事業実施計画　抜粋）